



SHUNKEN 2009-11 37-03

駿建

2009年秋期号 Vol.37 No.3 日本大学理工学部建築学科 日本大学短期大学部建設学科

SUPER JURY 2009

梅田 綾



会場風景



講評会風景

10月10日(土)に「スーパージュリー2009」が、駿河台校舎1号館CSTホールにて開催されました。「スーパージュリー」とは、学年・クラスに分かれて行われている設計科目から優秀作品を集め、横断的に講評会を行うもので、今年度で7回目の開催となります。

スーパージュリーに先立ち、9月29日(火)から10月10日(土)まで、同じく1号館CSTギャラリーにて展示が行われ、学部2年から大学院1年までの優秀作品、計31点の図面と模型が展示されました。

スーパージュリーでは、2、3年生を中心とした計21作品について、本人による発表とゲスト審査員による講評が行われました。今回は、ゲスト審査員として倉方俊輔(建築史家)、小嶋一浩(CAt, 東京理科大学教授)、中山英之(中山英之建築設計事務所)(敬称略)の3名にご参加いただきました。司会は佐藤光彦准教授が務め、本学の常勤、非常勤講師である先生方にも多数お越しいただきました。

会場には多くの学生が来場し、スクリーンにリアルタイムで映し出される発表者の模型、図面を見ながら、白熱する講評会に参加していました。他学年・クラスの優秀作品を見ること、またゲスト審査員による授業時とは異なる視点の講評を聞くことは、当日発表できなかった学生にとっても、参考になる点が多くあったのではないかと思います。来年度も多くの学生の参加を期待します。

講評会後は7号館1階食堂へ場所を移し、懇親会が行われ、ゲスト審査員からそれぞれスーパージュリー参加者に賞が贈られました。以下は、スーパージュリーの総評と受賞者へ対する各審査員の講評をまとめたものです。

最優秀賞：谷田一平(2年)

賞は2、3年生が対象で、まだ設計を始めて間もない学生の中から選ぶということから、可能性に対して賞を与えるのが良いのではないかと、そういう意味では一番たくさんの方の可能性があるとということで谷田君を選びました。

案ももちろん素晴らしかったのですが、プレゼンテーションが素晴らしかった。怖がって言葉を積極的に使わない学生が増えてきている中で、あえて言葉を置き換えて表現していくプレゼンテーション手法は新鮮でした。今回に満足せず、今後つぎつぎと新しい戦略でプレゼンテーションを行っていくようにすれば、もっと力がついていくと思います。そういう期待を込めての賞です。

中山英之賞：内山晃一(3年)

最近、いろいろな講評会に参加させていただいていますが、こんなに盛り上がり楽しい場となることはそうあるものではありません。一体となる場があること、その場に居合わせたことが貴重なことだったのだとしみじみ思う日がきっと来ると思います。

中山賞は内山君です。ときには叩かれ役となりましたが、300人の中から選ばれ、2つの作品を引き下げてこの場に立っているということは非常に重要です。A1の紙の中に自分の考えをぎっしりとまとめてプレゼンテーションするということに対する喜びみたいなものが、設計そのものやコンセプトを超えたところに何かを伝えてきました。とにかく勝ったり負けたりしながらもみんなの前に居続けてください。



最優秀賞 谷田一平



中山英之賞 内山晃一



倉方俊輔賞 小野加愛



展示風景



懇親会

倉方俊輔賞：小野加愛（2年）

プリミティブで鋭い視点を評価しました。人の判断は、学び、いろいろな知識を得ることで、正しくなくなってしまうことが間々あります。プロというものはその段階をもう一度超えたところにあります。

小野さんの作品は、プリミティブな視点を建築のフォームに落とし込んでいくということをきめ細かく丁寧にやっています。そういった姿勢を忘れずに、これからもやっていってほしいと思います。

小嶋一浩賞：長尾芽生（2年）

全体的に、オーラルを加えたプレゼンテーションがうまいと思いました。もちろん案もついてこないといけません。2年生の発表を聞いているときは、学年があがると勢いがなくなってきてしまうのではと危惧していたのですが、上級の学年も、一見堅く見えてもやりたいことをきちんともっていて、それは良いと思いました。それから、このように非常に良い場をもっているのだから、学生はもっともっと参加した方が良いと思いました。

個人の賞は、全員が賛同できなくても、良いと思った案、期待したい人にあげた方が良いと思い、小嶋賞は長尾さんとしました。私は模型があればじっと見て、入り込んでみるのですが、長尾さんの案は、実際これができていたら面白い体験ができるのではないかと思います。ただし、指摘があったように、まだまだ脇があまりです。毎回きちんとできるようにトレーニングしていった方が良いと思います。

2年	建築設計Ⅱ	第1課題 パブリックスペース	小野加愛, 山本匡希, 大黒幹也, 谷田一平
		第2課題 住宅	熊倉 拓, 佐藤太輝, 長尾芽生, 山本尚史
3年	建築設計Ⅳ	第1課題 〈設計・計画コース〉 駿河台図書館	内山晃一, 高間友明, 中井翔也
		第1課題 〈企画経営, 環境・構造コース〉 まちのライブラリー	織戸歩実, 服部一翔
		第2課題 〈設計・計画コース〉 新お茶の水小学校	内山晃一, 小口直樹, 山田明加
		第2課題 〈企画経営, 環境・構造コース〉 長者ヶ崎コンプレックス	新宅将志, 中川千尋
4年	建築設計Ⅵ	ビルト・エンバイロ メントの再構築	〈横河ユニット〉 今野和仁・瀬戸基聡・土川奈々子
			〈村松ユニット〉 伊澤 享・岸田一輝・藤井悠子・三平奏子
M1	建築デザインⅠ	建築の再生	〈竹内ユニット〉 高橋功一・高橋雄也・田中麻未也
			〈横河ユニット〉 大野佑太
			〈藤江ユニット〉 太田佳織
3・4年	デザイン ワークショップ	都市の中のユニセックス	〈西沢ユニット〉 下大園将人
			〈富永ユニット〉 松田佳那
			梅林稔弘・中井翔也, 石原愛美・南 雅博・宮澤和貴, 岡崎 優・村山寛子・山 達郎, 鈴木章弘・高間友明・太細雄介, 大塚慎平・羽生竜斗・藤井玄徳, 榮田秀介・鳥居智之

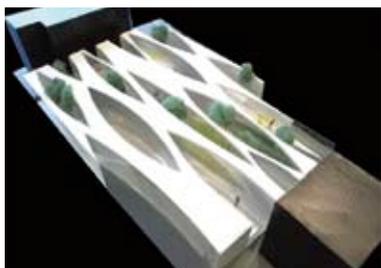
展示出展者リスト

特別賞（佐藤光彦賞）：中川千尋（3年）

厳しい講評も、皆さんの作品がある一定レベルに達していたからだと思います。それに対し、真剣に対応してくださいましたゲストクリエーターの皆様、ありがとうございました。学生の皆さんには、厳しい言葉も素直に受け止め、今後に役立ててほしいと思います。

特別賞は中川さんです。大変だからという理由で設計を避ける子が多い中、環境・構造コースなのに、好きで設計の授業をとって、かつ、ちゃんと設計できています。ただし、だから特別賞を与えるというわけではありません。このようなフィルターを通さずに見ても、非常に丁寧に設計し、ちゃんとしたことができています。今後どのような道に進むかはわかりませんが、次にかかしてください。

（うめだあや・助手）



小嶋一浩賞 長尾芽生



特別賞（佐藤光彦賞） 中川千尋



授賞式

2009年度 デザインワークショップ I

山崎誠子

今年のユニットマスターは全員女性教員

本年も夏季集中「デザインワークショップ I」が8月4日から10日まで、5号館4階、5階の製図室を使って行われた。参加者は66名で、男子学生48名、女子学生18名となった。ユニットマスターは専任教員1名と計画・設計系の非常勤講師3名の構成となっており、4名のユニットマスター4つのグループに分かれ、ユニットマスターの個性を生かした指導が行われた。今回は私が担当となったため、ユニットマスターを決定する際の試みとして全員女性教員にし、ワークショップサポートも女性の岩崎陽子助手と梅田綾助手となった。女性ばかり揃えてみた背景には、日本大学では、昨年より「男女共同参画および女性研究者支援活動」が活発に行われているのもあって、女性技術者の知識・経験・感性を学生に知ってもらえる機会になればという目論見もあった。

デザインワークショップは主に3年生が取得するカリキュラムとなっている。研究室に所属する前の段階でもあることから、短期集中で教員からマンツーマンに近い指導を受け、かつ2名以上の複数名でグループを作って作業を進めるといったことが特色となっている。

ユニットマスターはそれぞれ個性溢れる女性技術で、プロフィールは以下の通りである。

安藤勢津子：インテリアデザイナー、日建スペースデザイン取締役。2007年より理工学部でインテリアデザインの授業を担当。主な作品として「ホテルニューオータニ東京」「ミッドタウンオークウッドプレミア」。

伊藤朱子：建築家、(有)伊藤朱子アトリエ代表。2008年より理工学部非常勤講師。主な作品として「麓の家（山梨県建築文化賞受賞）」、「クオカショップ福岡」。

富永祥子：建築家、福島加津也+富永祥子建築設計事務所代表。2006年より理工学部非常勤講師。主な作品は「中国木材名古屋事業所（JIA 新人賞）」、「柱と床（住宅建築賞金賞）」。

山崎誠子：ランドスケープデザイナー、(有)GA ヤマザキ取締役、2007年より理工学部助教。主な著作『世界で一番やさしい住宅用植栽』、『新・緑のデザイン図鑑』。

建築計画・設計系教員で行われてきた従来のカリキュラムに、インテリア、ランドスケープの専門が入ったのも今年の特色となっている。

テーマは「都市の公共空間のユニセックスデザイン」

都市の中には、子供や高齢者などを意識したところから作られたものはたくさんあるが、男女の性別という観点から作られているものはあまり見かけない。ユニセックスとは男女両方に通用するファッションや髪型のデザインを指す。都市空間の中のあるものは男女両方に通用するもので良いのか、違った方が良いのか、都市の中に、男性・女性の性別という意識を持ち込むことで何が生まれるのかを考え、どんなデザインが生まれるかを説いた課題とした。成果品として、実物大の実作または模型、



安藤勢津子・Y00-H00



伊藤朱子・麓の家



富永祥子・中国木材名古屋事業所



山崎誠子「世界で一番やさしい住宅用植栽」

プレゼンポート1枚以上。土日を含み7日間で立案・制作を行う。4日目に全体で中間発表を行い、ユニットよりどんなことに着目し進めているのか、また発想の偏りはないかなどをチェックした以外は、ユニットマスターの裁量に任せて進めた。

女性の感性、男性の感性

「女性ってどういうのがいいんですかね?」と、家族に母親以外女性がない男兄弟だけの男性ばかりのグループは本当に困っていた。それとは反対に、女性だけのグループは「こんな感じだね」と一方的にかなり割り切り制作を進めていた。中間発表後、男女混合グループでは男性側と女性側に意見が分かれてどうしようかと悩む場面も。公的空間ではバリアフリーの観点から弱者に対するデザイン、大人と子供に対するデザインは行われているが、性を意識したものといえば、公衆トイレぐらいしか思い浮かぶのではないだろうか。体格も体力も感性も違う2つの人間タイプを意識することにより、違うデザイン、あるいは自分とは違う人に対する思いやりのようなデザインができればと思っていた。中間発表後は限られた時間で、少し不安が漂う感じであったが、皆、最後なんとか形に仕上げた。

最優秀賞は梅林・中井グループ

7日目の最終日、成果品が並べられた製図室はさながら

文化祭のような賑わいだった。実物大の作品は部屋のようなものから、イスまで大小さまざま。学生自身が支払う予算で作られることから、材料は身近にある高価ではないものではあったが力作揃い。

各グループが5分程度の説明を行い、4人のユニットマスターと横河健教授を加えた5名で採点をした。結果、以下の表のように最優秀作1点と優秀作2点、佳作を3点選んだ。

最優秀賞の「unit360 super leggero」はコンビニエンスストアの雑誌コーナーに着目し、性別により分かれている雑誌売り場のラックをデザインしたもの。男女専門誌を混在させることにより、外部から店内を眺めると、街角図書館あるいはギャラリーを思わせるような雰囲気を作りだし、もののデザインから都市景色のデザインに広がる効果とコンセプトも含め、評価が高かった。

最後に

表彰式の後、学生と教員との懇親会を行い、お互いの労をねぎらった。安藤先生は1週間に1時限の90分授業でだけ学生と接する、一方的な授業しか経験がなかったため、このようにやりとりができるワークショップは楽しかったと最後におっしゃっていた。このデザインワークショップの別の面で成果を得たことも含め、有意義な時間をもてたことは私にとっても良い経験となった。

(やまざきまさこ・助教)



製図室の空間いっぱいには作られた作品もあった



発表風景(ユニセッチャック):座っているのが教員、左から横河教授、伊藤朱子氏、富永祥子氏、安藤勢津子氏

賞	学生氏名	作品名
最優秀	梅林稔弘, 中井翔也	unit360 super leggero
優秀	石原愛美, 南 雅博, 宮澤和貴	ユニセッチャック
優秀	岡崎 優, 村山寛子, 山 達郎	=If she+he=shelf
佳作	鈴木章弘, 高間友明, 太細雄介	アトカベ
佳作	大塚慎平, 羽生竜斗, 藤井玄徳	Change
佳作	榮田秀介, 鳥居智之	ツリナワ

受賞者リスト



(左) unit360 super leggero
(中) 2万本のストローで作ったアトカベ
(右) 男女で座る姿が変わる Change

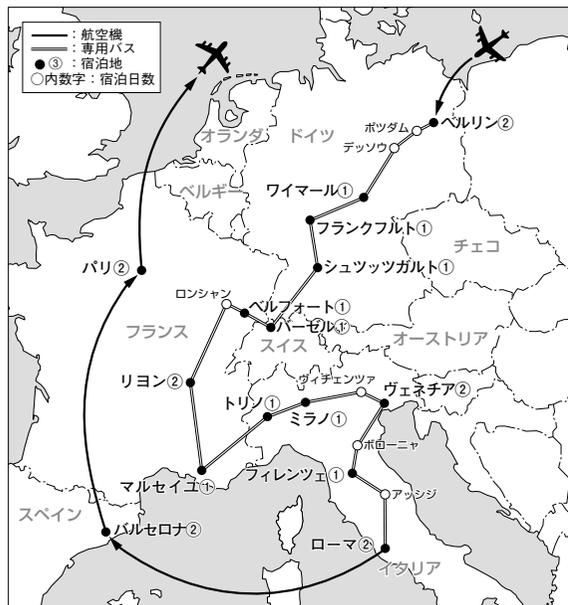
第41回 建築学生海外研修旅行報告

新型インフルエンザにより実施が危ぶまれた今回の研修旅行であったが、Aコースは8月20日から、Bコースは8月23日からのいずれも23日間で、下図に示したルートで欧州を駆け巡った。

両コースとも団体研修ならではの効率の良いコース設定で、個人旅行では到底見学できない場所が多く盛り込

まれ、かなり密度の濃い充実した研修であった。参加した学生（Aコース：41名、Bコース：32名）は意欲的で、多くの建築作品、遺跡、広場、街並みなどを見て回り、自らこれらに直接接することによって、ヨーロッパ文化を肌で感じ取ることができたようである。以下に、この貴重な体験をいくつか紹介したい。（山田雅一・助教）

Aコース 歴史主義の流れとモダニズムのルーツを探る

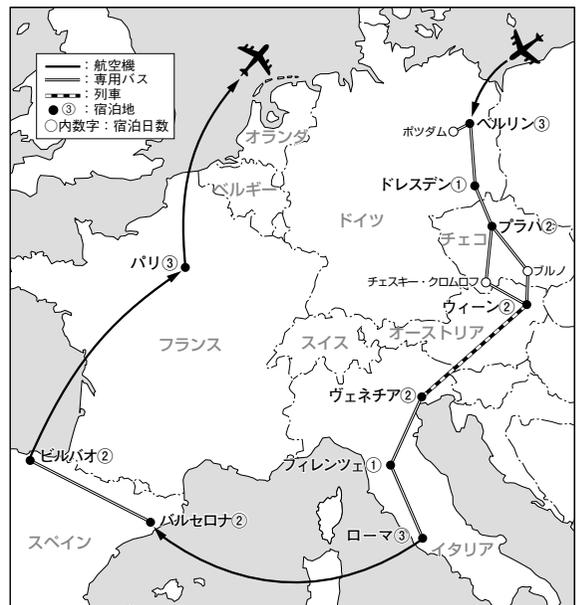


サヴォア邸にて (Aコース)

〈同行教員〉 大川三雄教授、山田雅一助教

〈参加学生〉 秋澤吉洋、植村嘉仁、木川正也、赤木貴子、池田 智、石川 祐、今井彩香、今井隼星、今成聡越、江口愛子、櫻 紀佳、大塚慎平、神谷 剛、菊池優佳、岸 歩美、栗原晶子、黒田麻友美、齊藤友紀、坂上翔子、佐藤育美、佐藤 光、鳥矢愛子、菅野菜実子、高野大地、高間友明、田川茉侑、武居里美、竹内貴重、土屋沙織、土居紗貴子、中村まり、長島早枝子、夏目南、野村優羽子、長谷川博基、福井 茜、福島 渚、丸山義真、宮田修平、村田梨花子、村山寛子 以上41名

Bコース ヨーロッパの建築と都市の再生



アインシュタイン塔にて (Bコース)

〈同行教員〉 根上彰生教授、梅田 綾助手

〈参加学生〉 穴田悠磨、五十嵐勇里、伊佐優子、石山拓実、大場雄太、大山一樹、小笠原康介、奥田優人、岸 香里、栗栖寛弥、小松祐輝、鈴木章弘、高木智加、高橋侑平、太細雄介、田中陽一郎、中川千尋、中川陽平、中桐康宏、中島 惇、中島和亮、中島英明、永井浩貴、藤井しづか、藤井智大、藤波亮太、堀内里菜、宮之前陽太、矢口あみか、谷津貴央、山田紘二、鈴木貴博 以上32名

ル・トロネ修道院

木川正也 (M1)

ル・トロネ修道院はロマネスク様式で、無装飾、無彩色をその特徴とするシトー会によって1175年頃に完成した。この建築は限られた採光からの優しい光に包まれ、その光はまた、石材の赤みがかった色に柔らかな表情を与えていた。そこには、ゴシック建築のような神々しい張りつめた空間というよりも、どこか暖かさがあり、人の感覚に近いものがあつた。複雑な装飾で得ることができる豊かさとは違う、単純な構成による建築の本質としての豊かさがそこには表現されていた。ル・トロネ修道院では建築と光の関係について、より深く興味をもつようになった。光が一つの色ではなく、多数の色の集合であり、光によって満たされた空間は光の質によってさまざまな表情を現す。光の扱い方によって、空間は自在に変わり、印象もまったく変わる。ル・トロネ修道院の光には単純な採光としての光の性質とは違う、光の性質が与えられている。その光の性質というのは、建築に聖なる空間を成立させるためには欠かせないものである。つまり、それは光の神秘性であると思う。その光の神秘性がル・トロネ修道院に他の建築にはない空間を演出させているのだと思う。

今回の海外研修全体を通して見学してきた多くの建築は、時間を超えて現代の私たちに過去の設計者が思い描いたことや、建築を建てることの意義などを伝えていた。それぞれの建築がもっている力強さや、設計者の、建築に携わったすべての人の思いが、建築から溢れているように思えた。建築に対する思いの強さが、建築そのものに力を与えている。そして、そのような建築は時間が経ったとしても、その力は衰えることはない。むしろ、さらにその力が増えているようにも思える。建築が時間を経ることで得られるのは、物質的にはただ風化していくことだけだが、その風化の過程が建築に表現の幅を広げる一つの要素としてあるのだと思う。

欧州の街並み

池田 智 (3年)

今回の約3週間の研修から、私は西欧の文化やライフスタイルを肌で感じ、改めて日本との違いというものを考えさせられた。今まで写真と文章からしか認識することができなかった建築との新たな出会い、そして、滞在したドイツ、フランス、スイス、イタリア、スペインの各都市の街並みであったり、そこで出会うさまざまな外国人から、多くの刺激を受けた。

各都市を回っていく中で私が感じたのが、街並みの統一性であった。それは今の日本の都市には見られないものであつた。街のどこを歩いていても、石畳で舗装された路地によって、街が一体感を増しているようであつた。所々に大きな広場や教会があり、コミュニティの場を形成し、そこに人々が自然と集まってくる空間に、日本との文化の違いを感じた。また、パリやバルセロナ、リヨンなどの大都市では、古い街並みと新しい街並みが交わりながら少しずつ更新され、その中に現代とのつながりを見出している。外観は古めかしくても、内部をリフォームして大事に使われている建物があつた。住人たちは過去から継承されてきた、都市の文化や歴史に対して責任をもっており、その街並みが残っているのも当然のように感じた。ドイツでは新築や改築する際に、その場所に関係する何か一つのパーツを残していくのが通例であると聞いたときは、保存の意識の高さに驚かされた。自分もそうだが日本では伝統への配慮が少なく、また自分の住む街に対する知識や誇りというのはほとんどないのがとても恥ずかしかつた。

今回、各国の都市を回り、さらには、コルピュジエやミースなどの巨匠たちの近代建築や、ローマをはじめとした古代建築など数多く訪れ、実際にその空間に立てたことはとても有意義であつたが、その感動を言葉にできず、建築や都市の歴史について知識のなさを痛感した。この旅行は建築にこれからも携わっていく上で、原点になっていくような、貴重な体験であつたと同時に、生涯忘れることのない3週間であつたと思う。

サンジミニャーノの街並み



海外研修旅行を終えて

福井 茜 (3年)

今回の研修旅行は私にとって初めての海外体験であり、各都市の文化や気候と人々の生活、歴史に触れることは、すべてが新鮮で興味深いことばかりでした。その中で育まれてきた都市や建築や場を体感し、建築空間の展開の仕方を自分なりの視点で見ようと旅行に臨みました。

数多い見学先の中でも楽しみにしていたのが教会建築です。ロマネスクからゴシック、ルネサンスなどを経て近代のRC造の教会に至るまで、その時代の文化を反映し、多様に変化しながら精神生活の拠り所としてあり続ける祈りの場は、重厚な存在感をもち静謐な光と空気を

たたえていました。ゴシックの上昇感ある尖頭アーチと鮮やかに浮かび上がるステンドグラスの光の空間も感動的でしたが、とくに印象的だったのはロマネスクのル・トロネ修道院です。回廊を巡って共同寝室、教会内部へと入り、堂内に響く聖歌を聴きながら、装飾のない壁と光の明暗で構成された簡素でいて豊かな空間を感じました。

加えて楽しみだったものがコルビュジエの作品でした。ロンシャンの教会などの見学や、ユニテ・ダビタシオンに宿泊できたことは本当に良い経験となりました。初年から晩年までの作品を実際に体験し、光の使い方や有機的形態へと変化していった過程と、一方でシークエンスの巧みな演出など、変わらずにあり続けたコルビュジエの空間を感じることができました。団体研修最終日に見学したサヴォア邸とアアルトのイル・カレ邸はとくに印象的で、近代建築のコンセプトの表現と、心地よい住空間を求めた細部までの作り込み、住宅建築にかけたそれぞれの思想が反映され、随所に技巧が凝らされて驚くばかりでした。

他にも古代から現代までのさまざまな建築の流れを巡り、カステルベッキオなどの保存再生の巧みさ、ヴェネチア、サンジミニャーノ、フィレンツェといったイタリアの気候と歴史による個性的な街並みに魅了され、ヨーロッパの建築と歴史と文化、人柄に触れる充実した旅行となりました。

序章

島矢愛子（3年）

最終日パリから空港へ向かうバス車内
『まだずっといるのだろう』
とまったく帰る気がしなかった。

憧れであったコルビュジエのロンシャンの礼拝堂をはじめ、世界的建築家が作ったさまざまな建築を見学することができてかなり満足していた。

それでも帰る気がしなかったのは、課題に追われる日本の生活と違い、ゆったりとしているヨーロッパの空気が自分に合っていたこと。そして、日本にいるときは違う考えを常に発見する刺激的な旅で楽しく、よりさまざまなものを見ていく必要があると感じた。

とくにバルセロナは、読めないスペイン語の本1冊を含め、建築の本を3冊購入するほど、インスピレーションが大きい土地だった。ジエンガのようなボリュームが互い違いのマンションをはじめ、バルコニーは日本ではありえないほど飛び出し、紙がめくれているような窓もあった。購入した本によれば、楽しげな雰囲気を出した建築家の作品がバルセロナには何気なく点在しているそうだ。それらから、それまでに見たどの街よりも、街

自体が生き生きとしている印象。そして、建築だけでなく建築のバックグラウンドとなる人々の生活や考えをも知る必要があると感じた。

だからこそ私がいた3週間は、巨匠たちの建築とヨーロッパの一片をかすただけに過ぎない。“序章”なのだ。

サグラダ・ファミリアから
バルセロナ市街を臨む



海外研修旅行を終えて

長島早枝子（3年）

今回のような23日間という長い海外旅行は初めてだったので、出発前は不安に思うこともありました。しかし、ヨーロッパに着いてからは、新しい建築や街を見られるという期待と興奮の方が大きくなりました。あらかじめ旅行で見る建築物の資料を大学院生に頂き、ノートを作っておいたことも理解を深めるのに役立ちました。また、芸術史、建築史の授業を受けていると、授業で聞いたさまざまなことが自分の目で見られるのでとても感動します。人に聞くのとまた違う自分の感想、印象をもちました。

さまざまな時代、用途の建築を見ましたが、とくに多く目にしたのが教会建築です。ヨーロッパでは当たり前ですが、どこの街にも教会があり、鐘が鳴っているのを耳にするだけでわくわくしました。とくに印象に残っているのが、パリのノートルダム寺院とロマネスクの教会であるル・トロネ修道院です。それぞれゴシック様式とロマネスク様式を代表とする教会堂ですが、それぞれの様式の特徴がわかりやすく、同じ中世の建築物でも様式の変化でここまで印象が違うものかと感じました。

建築物だけでなく、さまざまなヨーロッパの街の空気を味わえたこともいい経験になりました。ドイツ、スイス、フランス、イタリア、スペインの5ヵ国を回り、建築以外にも日本との違いを意識することが多々ありました。現地での何気ない習慣や出来事でも、驚かされることが多かったです。気候、環境はもちろん、日常生活の食事や買い物、電車や道路の作りにも違いが発見でき、システムとして見習った方がいい部分もあれば、改めて日本の良さを知ることもありました。

さらに、研修旅行の良いところは先生や先輩方と交流できることや、同学年でも普段接点のない人と友達になれることです。建築の見方や興味のもち方が人それぞれ違うので、それを聞けるだけでも勉強になったと思います。

リオラ教会

小笠原康介（3年）

自身のエッセイ集の中でアルトは、公共建築と日常生活のための世間一般の建築とは、互いにある種の無言の調和を保つべきであると述べている。このリオラの教会において、私は一つの教会としてではなく、他の住宅などに影響を与えうる存在として、都市計画の視点から計画している点に心を動かされた。建物そのものでも十分な迫力と完成度の高いディテールを味わえるが、それに加えて、全体の計画意図との整合性から改めて考えると、広場とのつながりなど、建物の形態の意味が明快に見えてきて、計画というものの奥深さとその重みに圧倒された。この感覚を今後に生かしたいと思った。



リオラ教区教会内部

アム・シュタインホーフ教会

堀内里菜（3年）

郵便貯金局に並ぶワグナーの代表建築として有名なこの教会は、ウィーンの森の端にある州立精神病院の中にある。立方体の箱に丸い銅屋根を被せたようなシンプルな形をした白亜の教会は、療養所敷地内の一番見晴らしの良い位置にアールヌーヴォー様式で建てられた。

内部に足を踏み入れてみると、普通の教会とはまったく趣を異にした明るく現代的な内装に驚かされる。シンプルな造りだからこそ、必要なものが集約され「祈り」というものと正面から向き合えるような気がし、ある意味圧倒された建築物であった。



アム・シュタインホーフ教会
外観（上）と内観（右）



パンテオン

山田紘二（3年）

とにかく大きかった。中に入ってみると、予想以上に広大な空間が広がっており、驚いた。コンクリートのドームのずっしりとした薄暗い空間に、頭頂部のオクルスから光が差し込み、神秘的な空間となっていた。雨が入ってくるのではないかという心配もあったが、オクルスの下にはきちんと排水溝があった。

見事なドームの造りや、大きさ、オクルスのような空間演出を、何千年も前に作り上げたとは信じられないような建築物だった。



パンテオン内部

サン・ピエトロ大聖堂

高木智加（3年）

サン・ピエトロ大聖堂は、今回の旅行で最も楽しみにしていた場所の一つで、その壮かさ、迫力はさすがキリスト教の総本山といえるものであった。

訪れたときは偶然にもミサが行われており、賛美歌とともにオペリスクの前から儀式が始まり、聖堂の中へと移っていった。聖堂内へ入ると、まばゆいくらいの光に包まれた室内が広がっていた。さまざまな彫刻、天井、光、それらを反射して輝く床、すべてが素晴らしかった。宗教や建築などの知識ではなくて、頭よりも身体に感じるその感動は、言葉にならないほどだった。

光といっても、照明による光であったため、後に「所詮は人工的な光だった」とも思ったが、この空間の光は、劇的演出として最高のものだったと気づいた。また、ミサに遭遇できたことで、音楽が与える効果や反響効果による、さらなる劇的効果も感じられた。

他の建築でも感じたことだが、宗教が人に与える影響の大きさをしみじみと感じた。9割の民衆が文盲の時代に宗教を伝える手段として用いられたのが建築物であったと聞いていたが、実際に自分の身体でそれを実感することができたのがとてもうれしかった。

サン・ピエトロ大聖堂
内部



グエル公園

奥田優人（3年）

モデルニスム建築らしく、このグエル公園には植物のような有機的な曲線を使ったディテールが多く存在する。柱一つにしてもまるで木のように「生えて」いる。木の皮やうろこのような模様になるよう石が積み上げられて柱ができています。この柱の上に草木が生えているだけで柱は植物と一体となる。自然と人工物の境目がかなり曖昧になっている。

アトラクションがあるわけでもないのに、楽しくなるような公園だった。バルセロナではガウディの建築にいつも驚かされたが、グエル公園ではとくに自然との密接な関係性を思い知らされた。それまでアールヌーボー、モデルニスム建築はただ植物を模しただけの遊びに過ぎないなどと勝手に思っていたが、ここに来て初めてそれが単なる表層ではなく、中身のぎっしり詰まったものであると理解できたのである。



グエル公園

バルセロナ・パヴィリオン

大場雄太（3年）

訪れて感じたことは、“Less is more.”（より少ないことは、より豊かなこと）という言葉を残しているミースの思想、考えが徹底されているということである。同じくミースが設計したトゥーゲンハット邸を訪れたときも同様に感じた。壁、床、天井において石とガラスと鉄などの最小限の素材を用いて簡潔に配置しているのに、研ぎ澄まされた直線の美しさや空間的な多様性があった。どの方向を見てもそこにしかない絶妙の空間構成が存在していた。オニキスの壁によるフロアの明と暗のエリアや二つの池も、背景となる白と黒の大理石の壁によってまったく違う印象を受けた。素材の選定も含め、この空間表現はミースにしかできないと感じた。ミースの二つの作品によってシンプルさの中にある多様な空間変化を見ることができた。



バルセロナ・パヴィリオン
内観

サグラダ・ファミリア

中川千尋（3年）

今回の海外研修で一番楽しみにしていたサグラダ・ファミリア。実際は、期待以上のものであった。彫刻の細かさや顔の表情などは近くで見ないと感じるこのできない喜びや悲しみ……いろいろな感情を帯びている気がした。その彫刻を見ているだけで、あっという間に時間が過ぎていった。建築というより、ガウディという人の欲望の塊、壮大な芸術作品を眺めているようであった。内部のステンドグラスの色使いもバランスがとても綺麗で、柱や天井までこだわりが伝わってきた。また、ライトアップされたサグラダ・ファミリアも印象的であった。重みのようなものが伝わってきて、圧倒されてしまった。憧れの場所に訪れ、少しでもガウディが伝えたかったことを感じ、世界に触られたことがとても嬉しかった。生きている間に完成したら、また行ってみたいと思った。



サグラダ・ファミリア外観

カンポ・ヴォランティン橋

栗栖寛弥（3年）

グッゲンハイム・ビルバオ美術館を越えて川沿いに歩いていくと、この橋が姿を現す。夜のビルバオの風景に照らし出され、この橋のシルエットが浮かび上がっていた。そのたたずまいは美しく、オブジェのようでもあった。交通、輸送手段の一つであるはずの橋が、芸術的な雰囲気を持っていることに驚いた。橋の端から奥を見ると、入り組んだケーブルと湾曲したアーチにより、空間がどこまで広がっているかわからないような錯覚を受ける。渡り始めて驚いたのは、屋外であるのに内部空間に入ったかのような感覚である。ケーブルにより構成される「橋の内部」は、ライトアップされ、神秘的な空間となっていた。シンプルなデザインと、ありふれた材料で構成されているにもかかわらず、幻想的な建築となっていた。



カンポ・ヴォランティン橋
夜景

オリエンテーション報告

田嶋和樹



みなとみらいを背にして (E コース)

建築学科2年生を対象としたオリエンテーションが6月20日(土)に実施されました。毎年の恒例行事であるこの企画は、実際の都市や建築物を教材として、学生と教員と一緒に勉強し、親睦を深める見学会です。

本年度のオリエンテーションでは、右表に示す9コースを準備しました。A～Gコースは貸切バスを利用し、H～Iコースは公共交通機関を利用するコースです。設計・計画コース、企画経営コースおよび環境・構造コースの先生が趣向を凝らして計画したコースであり、各々の特色が明確に表れたコース編成となりました。

本年度は300名近い2年生がいずれかのコースに参加しました。当日は晴天に恵まれたこともあり、各コースにおいて、意欲的に活動する2年生の姿が確認できました。また、当日は昼食時や見学後に懇親の場も用意されており、普段の授業とは違った形で教員と学生がコミュニケーションを図れたと思います。

本格的に建築の専門分野の勉強が始まった2年生にとっては、各分野で活躍している教員や専門家と触れ合うことによって、建築をさまざまな角度から見る面白さを体験できる好機となったのではないのでしょうか。一方、教員にとっても、毎日の授業とは違った学生の一面を発見できた良い機会であったと思います。本年度終了時にはコースの選択をしなければならない2年生ですが、このオリエンテーションでの経験が自分の将来について真剣に考える良いきっかけとなることを期待します。

(2年生クラス担任・たじまかずき・助教)

A コース『SUMIKA Project と宇都宮の建築を巡る①』 SUMIKA バビリオン, コールハウス, 宇都宮のハウス, House before House, 大谷資料館, 旧イタリア大使館夏季別荘 佐藤光彦, 山崎誠子
B コース『SUMIKA Project と宇都宮の建築を巡る②』 SUMIKA バビリオン, コールハウス, 宇都宮のハウス, House before House, 大谷資料館, 旧イタリア大使館夏季別荘 山中新太郎, 今村雅樹, 岩崎陽子
C コース『新緑の中央道を行く』 日本盲導犬総合センター, 八王子市長池公園自然館・長池ネイチャーセンター 渡辺富雄, 八藤後 猛, 佐藤慎也, 梅田 綾
D コース『日光の名建築を訪ねる』 旧イタリア大使館別邸, 金谷ホテル, 日光東照宮, 日光真光教会, 日光駅 大川三雄, 重枝 豊, 大山亜紀子
E コース『古都・鎌倉から開港150周年の横浜へ』 鎌倉の歴史的街並み, 北仲ブリック, 汽車道, 赤レンガ倉庫, 大棧橋, BankArt など 三橋博巳, 横内憲久, 根上彰生, 宇於崎勝也, 柳田 武, 川島和彦
F コース『環境×建築の作品・技術を体験する』 オープンプラン小学校(練馬区立光和小), ひばりが丘パークヒルズ (UR 建替え計画), リサイクルふれあい館, 蔵の街・小江戸川越散策 井上勝夫, 池田耕一, 富田隆太
G コース『ガラスの良さを活かした空間構造を巡るツアー』 勝どきガラスルーフ, 葛西臨海公園, さいたまスーパーアリーナ 岡田 章, 宮里直也, 斎藤公男, 高橋裕子
H コース『都市防災と江戸文化を学ぶ下町ツアー』 江戸東京博物館, 東京消防庁本所防災館 安達俊夫, 白井伸明, 古橋 剛, 田嶋和樹, 秦 一平, 山田雅一
I コース『ものづくり体験コース—木材を継ぐ—』 ものづくり大学(木材の作製(継手など)を体験) 中田善久, 清水五郎, 飛坂基夫



熱心に説明を聞く学生たち (B コース)



日光金谷ホテルでランチ (D コース)



木材実習の様子 (I コース)

本当の動的構造設計を目指して

石丸辰治

筆者略歴

1940年
1965年
1983～2009年
現在

新潟県生まれ
日本大学大学院修士課程修了
日本大学理工学部建築学科
教授
(株) i2s2 技術顧問



皆さんは下の写真の建物は知っていますよね？ 言わずと知れた昭和39年の東京オリンピックのために作られた代々木のオリンピックプールの建物です。この建物は吊り構造ですが、両端柱の天辺と吊りロープの中央付近との間に振動防止装置としての「オイルダンパー」が12本装着されています。もちろん、実在構造物に初めて「オイルダンパー」が装着された「制振構造物」です。

私の恩師の田治見宏先生が振動解析されたものですが、大学院生であった私が最初にお手伝いした建物でした。その頃は現在のようなコンピューターはなく、大きな計算モデルを作成して、その特性を抽出することは不可能の時代でした。なにしろ手回しのタイガー計算器しかなかったものですから、その建物の振動的本質をいかに抽出するかが大きな課題でした。

田治見先生はこれを下図のような、私には想像もできないモデルを作成されて、見事に最適設計式を誘導されるとともに、1/300の模型実験でその特性に誤りがないことを確認されたものです。

この経験は私の46年間の研究の方向を決定づけたと言っても良いでしょう。

動的設計する際には、構造物の揺れやすさの特性を見つけ出す「固有値解析」を行います。パラメータが少しでも係数が変わると性質が大きく変わるという性質に

驚いたものです。

すなわち、構造物にはそれぞれ振動的個性が存在し、その個性をいかに決定していくかが動的設計では重要になってきます。

通常の耐震設計ではこのようなことは行われず、私にとっては通常の設計方法は「まやかし」であると信じるに至ったわけです。

地震や台風もそれぞれ振動的個性をもっていますが、それらのエネルギーをいかに有用な個性、すなわち適正な数字モデルを構造物に与えることによって閉じ込めるかが、実は動的構造設計の醍醐味でもあります。

その方法論を46年間も追いかけて、耐震・免震・制震という手法をひとくくりにした「対震設計法」という新しい理論を創作しましたが、これは構造物の振動的本質とは何かを問いつめた当然の結論でした。

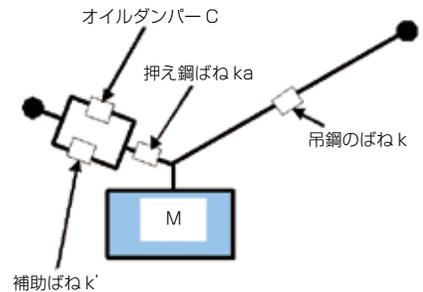
先進的方法でしたが、その方法論の普及のために立ち上げた大学発ベンチャー(株) i2s2は、ようやく多くの設計者からの相談に追われ、広がりを見せ始めています。

地球環境の視点から構造物に要求される特性は変化しています。皆さんも本質を見究める姿勢を失わずに、新しい視点から、未来を開拓されることを願っています。

(いしまるしんじ・非常勤講師)



代代木のオリンピックプール



計算モデル

建築の明日は、歴史に学ぶ

片桐正夫

ながながと私の歩みを述べても皆さんにはつまらないと思いますので、理工系の建築カリキュラムに建築史の講義がいくつも設置されているのはなぜかという、われわれの意図をお話します。

“歴史に学ぶ”とはよく耳にする言葉です。この意味するところは大きく二つあります。一つは過去の事例から、今直面している事情を的確に判断する材料を得ること。もう一つは、未来学として学ぶという意味で、人間の営みの履歴の分析を通して、過去の営みのパターンからこれからの行動指針のヒントを得るということでもあります。

いうまでもなく建築は人間の営みの器でありますから、歴史と深くかかわっており、まさに“歴史に学ぶ”ことは、建築の過去における時代とのかかわりを理解すること、未来の建築の姿をイメージする手掛かりを得ることにつながるのです。

では時代と建築の過去におけるかかわり方はどのようなものであったのでしょうか。人類の歩みは歴史的にみると、常に文明（ハードな技術開発）の展開が先行して歴史の展開が起こってきました。人類はこれまでの歴史で2回の文明変革を起こし、地球上すべての生き物の頂点に位置しています。歴史の上では“産業革命”とよび、人類の歩みを区分整理しています。

“第1次産業革命”は、今から約8000年前に起こったと考えられています。すなわち農業という、生命を育む食物を再生産する技術を開発したことです。これによって他の生き物との決定的な差異が起こったのです。国をつくり、宗教を生みだしました。これによってさまざまな宗教に関する建築づくりが建築の発展と多様化をうながしました。神殿、巨大墓、寺院、教会が、土や、木、石材を加工して積み上げつくられました。それ以前の巣づくりにも似た建築活動は一変したのです。この文明活動はおよそ7700年間続きました。

そして今から約300年前に“第2次産業革命”が起きました。いうまでもなく人工動力（蒸気機関力）の発明に端を発した近代の幕開けです。大量生産、大量消費、そして、鉄、ガラス、セメントの量産化も行われることになりました。建築はこれらの新建材を用いて、新経済

筆者略歴

1939年 長野県生まれ
1967年 日本大学大学院理工学研究科建設工学専攻修士課程修了
日本大学理工学部建築学科助手
1983年 同 建築学科助教授
1996年 同 建築学科教授
2009年 日本大学名誉教授



システム活動のニーズに応じて、工場、オフィス、鉄道施設、集合住宅などの近代建築をつくりだし、都市環境を一変させてきました。約300年間で、第2次の産業革命による諸々の発明の果実を得て、人類は人口をそれ以前の8～10倍にまで増加させてきました。

そして20世紀の末には、革命の負の部分の顕在化現象に直面いたしました。CO₂排気ガスによる地球温暖化、オゾン層の破壊、地下資源の減少等々の問題です。また、第2次の革命では、富の配分をめぐる資本主義、共産主義などイデオロギーの対立、世界の国々を巻き込んだの2回にわたる世界戦争も引き起こしました。

21世紀を迎えた今、歴史的見知に立つと、どうやら2回目の文明変革の限界点が見えてきたと感じており、これがわれわれの心を、明るい未来を期待できない閉塞感へと導いているのではないのでしょうか。イデオロギー対立の時代ではもはやなく、戦争の形すら、国対国ではなくテロとの戦いという落としどころの見えない形に変化してしまっただけです。

では人類はどうすればよいのかということですが。答えは“歴史に学ぶ”というキーワードしかないと思います。“第3次文明改革”の扉を探し、それを開くことこそ、人類の未来を展望することへの道だと思えます。

鍵は“エネルギー問題”の解決、すなわち太陽光発電技術の開発、実用化の実現でしょう。地上でも、宇宙開発による成層圏外でもよいですが、エネルギー源が太陽光によって確保できるとすると、多くの問題がほとんど解決につながるでしょう。“第3次産業革命”の鍵は、太陽光発電技術の開発ではないかという気がします。そのとき、次の時代の建築に対するニーズはどのようなものでしょうか。

皆さんが担う21世紀を生きる、建築の専門家の役割と建築の姿について歴史的視点に立って考え、準備することが求められるのではないのでしょうか。

(かたぎりまさお・日本大学名誉教授)

目下、取り組んでいるカンボジアの王道研究から、SpeanTaOng（タ・オン橋）



建築出身の都市計画家として

小嶋勝衛



1965年 横浜市鶴見駅前東口防災建築街区基本計画



1965年 目黒駅前権之助坂街区再開発プラン

「都市計画家と建築家の職能が分化する中、『空間までイメージできる数少ない計画家』（建築評論家の長谷川堯さん）だった。」——これは都市計画家・水谷頼介氏（建築家・都市計画家・神戸大講師）を追悼した「都市計画家の宿命」と題する朝日新聞（平成5年3月22日）のコラムの1節です。

2年生のある日、突然、小林美夫先生からお電話を頂き、「志賀高原・発哺に“工科山の家”を設計したが、建設会社が図面を読みきれないので、S.1/50の軸組模型を作るから手伝ってほしい」とのお誘いでした（この建物はいまは無く、八海山セミナーハウスに掲載誌・写真と暖炉が常設展示されています）。以来、何かと3年生の1年間も研究室へ通いつめる生活が続きました。研究室はアトリエの様相を呈していました。

4年生の卒業研究は都市計画（市川研究室）を専攻しましたが、極めて自主性の高い進行でしたので、夜は図面をひくことができました（なお、卒業研究「住宅地の発展に関する研究」は桜建賞を授与されました）。

ル・コルビュジエ、F.L.ライト、アルヴァ・アアルト…村野藤吾、白井晟一、前川國男、丹下建三…枚挙にいとありませんが、近代建築のそうそうたる大御所が活躍していました。3年生終わりの春休み、先輩の事務所でアルバイトをさせていただき、それを元手に村野藤吾の作品を追って10日間程一人旅をし、実物のすごさに感動したことを覚えています。

一方、CIAM崩壊と「チームX」の出現は、いま世界の建築界が大きく変わろうとしている予兆だと、学生の身にもわかりました。日本でも菊竹清訓、川添登、黒川紀章らの「メタボリズム」、大高正人「人工土地」、丹下健三「東京計画」、大谷幸夫「麹町再開発計画」等々。さらにアーバンデザインの考え方も入ってきました。私にとって「これからの建築家は都市を勉強しなければ」と思うに十分な雰囲気満ちていました。大学院へ進み、都市計画を勉強することとなります。

4年生から大学院生にかけて、当時、三大公開コンペといわれた「国立劇場」「国立国際会議場」「浪速芸術大

学学園建設総合計画」に応募した小林先生のグループに名前を加えていただき、建築デザインに夢中でした。

1961年制定の防災建築街区造成法は、1969年の都市再開発法制定までの7年間活用された法律ですが、建築家が街区単位の都市改造に建築スケールで参加できる意義深いものでした。1964年、神田須田町羅紗間屋街の防災街区化の仕事に研究室として対応しました。現況調査・分析・立案・モデル設計案の提示と頑張りましたが、直後の繊維不況で実現には至りませんでした。次いで「横浜市鶴見駅前東口防災建築街区基本計画」を受託しました。

駅ビル計画が先行していましたが、地権者への対応を図りながら建築群のモデル設計案まで提案しました。

1965年、目黒駅前権之助坂街区再開発プロジェクトは駅ビル計画、首都高速目黒I.C.の建設、地下鉄の新規参入予定などの中で、地元商店街がどう対応すべきかという都市構造の変化の読みとその対応策の提案でした。

都市再開発法施行後の1972、73年の「目黒区原町一丁目再開発計画」では、実態調査・意向調査・モデルプラン作成・資金計画・権利変換計画のモデル展開まで提示しました。これらの経験はやがて事業計画を伴った理工学部自主提案「トラポリス」計画へ、そして教育場面では建築学科企画経営コース、大学院不動産科学専攻の創設へとつながっていきました。

〈追記〉実際に建設しなければとの思いも強く、数少ない機会を有効に生かし、自己単独の設計・監理によるもの：住宅（木造3件、RC1件）。後輩の事務所と協同によるもの：住宅（RC1件）、公共建築（「伝統工芸センター」RC、「しいたけの館」SRC）。他、実現しました。

（こじまかつえ・非常勤講師）

筆者略歴

1940年
1965年

東京都生まれ
日本大学大学院理工学研究科
修士課程修了（市川研究室）
日本大学理工学部建築学科副
手・助手・専任講師・助教授
同 建築学科教授



1983年
1997～2005年
2005～08年
2009年3月

日本大学理工学部長
日本大学総長・理事長
定年退職

2009年度 日本建築学会大会（東北）

建築学科教室関係者発表論文リスト

○印 発表者

材料施工

1150 養生方法が異なる高性能 AE 減水剤を用いたコンクリートの乾燥収縮に関する一考察 その1 乾燥開始までの水中養生の温度が乾燥収縮に及ぼす影響 ○金替俊明（日本大）・中田善久・大塚秀三・飛坂基夫・真野孝次・毛見虎雄・坂本 亮

1151 養生方法が異なる高性能 AE 減水剤を用いたコンクリートの乾燥収縮に関する一考察 その2 脱型直後から気中養生した供試体の乾燥面が乾燥収縮に及ぼす影響 ○坂本 亮（日本大）・中田善久・大塚秀三・飛坂基夫・真野孝次・毛見虎雄・金替俊明

1310 吸水性状に基づくコンクリートの品質評価に関する研究 その2 セメントの種類が異なる場合の適用性 ○久保田英樹（日本大）・清水五郎・中田善久

1311 吸水速度に基づく高強度コンクリートの調合・強度の推定に関する研究 その3 試験体の寸法・初期含水率が異なる場合の適用性 ○清水五郎（日本大）・久保田英樹・中田善久

1312 硬化コンクリートの単位水量試験方法に関する検討一養生方法および吸水方法の違いがモルタルの試験結果に及ぼす影響一 ○須藤絵美（内山アドバンス）・中田善久・笠井芳夫

1453 施工性を考慮した高強度コンクリートの調合に関する検討 その1 試し練りの概要と高性能 AE 減水剤の使用量の変化 ○斎藤丈士（内山アドバンス）・中田善久・女屋英明・春山信人・關 裕司・田村裕介

1454 施工性を考慮した高強度コンクリートの調合に関する検討 その2 室内試験におけるフレッシュコンクリートの性状に関する検討 ○關 裕司（内山アドバンス）・中田善久・女屋英明・斎藤丈士・春山信人・田村裕介

1455 施工性を考慮した高強度コンクリートの調合に関する検討 その3 室内実験における硬化コンクリートの性状に関する検討 ○田村裕介（日本大）・中田善久・斎藤丈士・女屋英明・春山信人・關 裕司

1456 施工性を考慮した高強度コンクリートの調合に関する検討 その5 コア強度に関する検討 ○女屋英明（内山アドバンス）・中田善久・斎藤丈士・春山信人・關 裕司・田村裕介・大塚秀三・毛見虎雄

1467 中庸熟ポルトランドセメントを用いた 100N/mm² クラスの高強度コンクリートの模擬柱部材におけるコア強度の分布に関する一考察 その1 実験概要および強度発現性状 ○佐々木真宏（フジミ工研）・吉田雪乃・中田善久・春山信人・大塚秀三・藤井和俊・久保田英樹

1468 中庸熟ポルトランドセメントを用いた 100N/mm² クラスの高強度コンクリートの模擬柱部材におけるコア強度の分布に関する一考察 その2 コア供試体の採取位置および採取

深さによるコア強度の分布 ○吉田雪乃（日本大）・佐々木真宏・中田善久・春山信人・大塚秀三・藤井和俊・久保田英樹

1469 高強度コンクリートから採取したコア供試体の高さ直径比がコア強度とその変動に及ぼす影響 ○中田善久（日本大）・大木崇輔・大塚秀三・毛見虎雄

1477 高強度コンクリートのコア供試体の採取方法に関する一考察 その1 実験概要および強度発現性 ○森本和雅（ものつくり大）・中田善久・大塚秀三・大木崇輔・坂本英之・毛見虎雄

1478 高強度コンクリートのコア供試体の採取方法に関する一考察 その2 採取深さの違いがコア強度に及ぼす影響 ○坂本英之（日本大）・中田善久・大塚秀三・大木崇輔・森本和雅・毛見虎雄

1479 高強度コンクリートのコア供試体の採取方法に関する一考察 その3 コア強度の変動と強度発現性を考慮したコア供試体の採取方法に関する検討 ○大塚秀三（ものつくり大）・中田善久・大木崇輔・森本和雅・坂本英之・毛見虎雄

1565 戻りコンクリートを再利用したポンプ圧送用モルタルの実用化に関する研究 その16 戻りコンクリートの実態調査とその考察 ○湯本哲也（和田砂利）・和田平作・高橋俊夫・小田英樹・毛見虎雄・小宮正夫・小宮政光・福島圭一・中田善久・大塚秀三

1566 戻りコンクリートを再利用したポンプ圧送用モルタルの実用化に関する研究 その17 戻りコンクリートの返却時間が再生モルタルの品質に及ぼす影響 ○福島圭一（和田砂利）・和田平作・高橋俊夫・女屋英明・毛見虎雄・小宮正夫・小宮政光・湯本哲也・中田善久・大塚秀三

海洋建築

10010 波来襲時の港湾内の船舶・浮体式建築物を対象とした海域津波ハザードマップの開発に関する基礎的研究 ○増田光一（日本大）・居駒知樹・鈴木雄太・増田光弘・大塚文和

10029 熱海のイェ 海岸斜面都市熱海における長期滞在型の温泉まちづくりの提案 ○島田かおり（日本大）・横内憲久・岡田智秀

10030 浮力を得る市場 築地市場の豊洲地区移転計画をふまえた浮体型市場の設計 ○朽木健二（日本大）・横内憲久・岡田智秀

10034 海岸空間における景観・環境デザイン制度に関する報告 米国ハワイ州の海岸線セットバックルールについて ○岡田智秀（日本大）・横内憲久

10040 沿岸域総合管理の対象範囲に関する研究 自治体・NPO・民間企業の活動範囲を対象として ○山下 泉（日本大）

横内憲久・岡田智秀

10043 都市部のウォーターフロントにおける港湾緑地の新たなあり方に関する研究 横浜港の内港部に位置するシンボル緑地を対象として ○福田朗大(日本大)・横内憲久・岡田智秀・宮森 隆

10045 都市内における水上交通利用の促進に関する研究 発着所の後背地における土地利用状況の考察 ○塩原大亮(日本大)・横内憲久・岡田智秀

構造 I, II, III, IV

20044 建物形状による吹きだまり制御を目的とした実験的研究 ○佐藤泰春(日本大)・半貫敏夫

20192 非線形な復元力及び減衰挙動を追跡するための数値積分法 その1 改良手法の安定性 ○皆川 勝(日本大)・外山義行・神田 亮・安達俊夫

20193 非線形な復元力及び減衰挙動を追跡するための数値積分法 その2 改良手法の精度・数値シミュレーション ○外山義行(日本大)・皆川 勝・神田 亮・安達俊夫

20270 既製コンクリート杭の杭頭半剛接合法の損傷限界に関する検討 ○青島一樹(大成建設)・小林治男・安達俊夫

20294 過剰間隙水圧の評価における累積損傷度と累積塑性ひずみエネルギーの比較 ○軽部宏紀(日本大)・安達俊夫・下村修一

20300 摩擦音を利用したスウェーデン式サウンディング試験に関する実験研究 ○酒匂教明(日本大)・塩川博義・下村幸男・川村政史

20310 小規模建築物の地盤補強に用いる杭工法に関する検証(その5) ○佐藤 隆(住友林業)・塩沢伸明・安達俊夫

20311 東京都白山地区と大塚地区における既存擁壁の実態調査 ○黒崎明人(ジオテック)・須々田幸治・安達俊夫・平出務

20318 スウェーデン式サウンディング試験孔を利用した有孔パイプによる地下水位の測定法 ○金 哲鶴(韓国エンジニアリング)・松下克也・岡野泰三・安達俊夫・藤井 衛

20333 山留め壁に作用する土圧一変位関係の繰返し挙動 その1 三軸試験装置と繰返し載荷試験 ○太田 宏(日本大)・安達俊夫・山田雅一

20342 土の表乾状態を基に水量管理した版築工法による建築物の築造方法に関する研究 ○川村政史(日本大)・酒匂教明・下村幸男

20393 アーチ型張弦梁構造の座屈性状に関する研究 その1 研究概要 ○加藤千博(構造計画・プラスワン)・中島 肇・内山 学・西谷隆之・篠崎 淳・宮里直也・岡田 章・斎藤公男

20394 アーチ型張弦梁構造の座屈性状に関する研究 その2 剛性比、境界条件および偏心による影響について ○安田真弓(日本大)・加藤千博・中島 肇・内山 学・西谷隆之・篠崎 淳・宮里直也・岡田 章・斎藤公男

20395 アーチ型張弦梁構造の座屈性状に関する研究 その3 数値解析による検討 ○篠崎 淳(日本大)・加藤千博・中島 肇・内山 学・西谷隆之・篠崎 淳・宮里直也・岡田 章・斎藤公男

20396 弾性範囲内で設計されたストリング式骨組架構(SKELSION)の弾塑性応答性能について(その1) 構造設

計の現状と静的応答性能の把握 ○河野俊作(日立建設設計)・落合涼子・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・安並卓嗣

20397 弾性範囲内で設計されたストリング式骨組架構(SKELSION)の弾塑性応答性能について(その2) 動的応答性能と1質点等価せん断型モデルの有用性の把握 ○安並卓嗣(日本大)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・河野俊作・落合涼子

20398 弾性範囲内で設計されたストリング式骨組架構(SKELSION)の弾塑性応答性能について(その3) 終局状態を考慮した設計手法について ○落合涼子(日本大)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・河野俊作・安並卓嗣

20399 プレストレスを利用したガラス構造の適用性に関する実験的研究 その1 小規模模型実験による応力制御効果の検討 ○藤原圭吾(OVE ARUP)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・橋本明子

20400 プレストレスを利用したガラス構造の適用性に関する実験的研究 その2 破壊後の性状把握と応力制御効果の検討 ○橋本明子(日本大)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・藤原圭吾

20401 キューブ型張弦シザース構造の基本的構造特性に関する研究 その1 基本的力学性状の把握と数値解析手法の提案 ○水野佑理(日本大)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・竹本孝輔

20402 キューブ型張弦シザース構造の基本的構造特性に関する研究 その2 偏心部材モデルによる耐風性能評価 ○竹本孝輔(東畑建築事務所)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・水野佑理

20405 トリアコン分割されたジオデシックドームの基本的構造特性に関する研究 その1 HP形状の膜パネル付加の効果と仮設空間への適用性について ○山田達也(日本大)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・竹内義典

20406 トリアコン分割されたジオデシックドームの基本的構造特性に関する研究 その2 基本的構造特性の把握 ○竹内義典(三菱地所設計)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・山田達也

20407 サスペン・アーチ・グリッドルーフの基礎的研究ープリベンディング・アンブレラの仮設空間への適用性についてー その1 プリベンディング・アンブレラの提案と付加荷重に対する抵抗について ○道下祐貴(日本大)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・畠山峰行

20408 サスペン・アーチ・グリッドルーフの基礎的研究ープリベンディング・アンブレラの仮設空間への適用性についてー その2 ディテールの検討と試設計について ○畠山峰行(渋谷区役所)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男

20420 ETFEフィルムを用いたばねストラット式張力膜構造の応力弛緩に関する研究 その1 安定ひずみを考慮した応力-ひずみモデルの提案 ○川又哲也(戸田建設)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・永井佑季・中島 肇・梅原智洋

20421 ETFEフィルムを用いたばねストラット式張力膜構造の応力弛緩に関する研究 その2 応力弛緩前後の応力変形性状に関する数値解析的検討 ○梅原智洋(日本大)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・永井佑季・中島 肇・川又哲也

20422 ホルン型張力膜構造のボンディング現象に関する基礎的研究 その1 小規模試験体における実験的検討と数値解析モデルの提案 ○福田隆徳(日本大)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・永井佑季・赤岩英和

- 20423 ホルン型張力膜構造のボンディング現象に関する基礎的研究 その2 実規模モデルに対する数値解析的検討 ○赤岩英和(佐藤総合計画)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・永井佑季・福田隆徳
- 20425 レンズ型二重空気膜構造の強風時の構造挙動について その1 動的応答解析手法の提案 ○小野 晋(竹中工務店)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・永井佑季
- 20426 レンズ型二重空気膜構造の強風時の構造挙動について その2 風応答に基づく強風時の内圧設定 ○神崎聡美(日本大)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・永井佑季・小野 晋
- 20429 開放型膜構造建築物の設計用風圧力に関する研究 ○黒木二三夫(日本大)
- 20455 き裂を考慮したガラスの破壊性状および強度に関する実験的研究 その1 即時破壊に対する検討 ○三宅由祐(日本大)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・西山明宏
- 20456 き裂を考慮したガラスの破壊性状および強度に関する実験的研究 その2 遅れ破壊に対する検討 ○西山明宏(JFEエンジニアリング)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男・三宅由祐
- 21117 地震計を利用した建物被害簡易予測システムに関する研究 その1 建物被害簡易予測システムの概要 ○秦一平(日本大)・古橋 剛・石丸辰治・大野勝亮・荒井恵美・李 禧珠
- 21118 地震計を利用した建物被害簡易予測システムに関する研究 その2 既存構造物の振動特性評価 ○荒井恵美(日本大)・石丸辰治・古橋 剛・秦 一平・大野勝亮・李 禧珠
- 21119 地震計を利用した建物被害簡易予測システムに関する研究 その3 構造物の地震被害判定方法 ○大野勝亮(日本大)・古橋 剛・石丸辰治・秦 一平・荒井恵美・李 禧珠
- 21211 DM一ばね直列系システムのモード制御に関する基礎的研究 その1 DM一ばね直列系システムのモデル構築・解析 ○牧 良太(日本大)・秦 一平・石丸辰治・渡邊直子・古橋 剛
- 21212 DM一ばね直列系システムのモード制御に関する基礎的研究 その2 DM一ばね直列系システムの振動実験 ○小山 翔(日本大)・秦 一平・石丸辰治・渡邊直子・古橋 剛
- 21213 DM一ばね直列系システムのモード制御に関する基礎的研究 その3 DM一ばね直列系システムの性能検討 ○渡邊直子(日本大)・秦 一平・石丸辰治・小山 翔・古橋 剛・三上恭平
- 21322 制震装置を組み込んだフレームモデルの位相特性に関する基礎的研究 その1 複素固有値解析による位相特性の把握 ○三上淳治(日本大)・石丸辰治・古橋 剛・秦 一平・油野球子・中澤史成・中村文彦
- 21323 制震装置を組み込んだフレームモデルの位相特性に関する基礎的研究 その2 2層フレームモデルの振動実験 ○中村文彦(日本大)・石丸辰治・古橋 剛・秦 一平・油野球子・中澤史成・三上淳治
- 21367 ダイナミック・マスを利用した構造設計について その3 C型モデルの振動特性 ○油野球子(日本大)・石丸辰治・古橋 剛・秦 一平・中澤史成・中村文彦・三上淳治
- 21368 ダイナミック・マスを利用した構造設計について その4 MC型モデルの振動特性 ○中澤史成(日本大)・石丸辰治・古橋 剛・秦 一平・油野球子・中村文彦・三上淳治
- 21431 ゴム球免震装置を用いた戸建て免震システムの開発 集材材架台に適用する接合金物の検討 ○渡辺直輝(日本大)・石丸辰治・古橋 剛・秦 一平・柳崎尚輝・村西大介
- 22136 木造面格子で構成された簡易耐震シェルターの水平剛性・耐力に関する基礎的研究 品川シェルターの開発 ○北 茂紀(日本大)・岡田 章・宮里直也・斎藤公男
- 22350 設計骨組による損傷集中回避の効果 ○柳田佳伸(日本大)・半貫敏夫・秋山 宏
- 22505 Vノッチ引張試験による鋼構造柱梁接合部の延性破壊保証温度 ○清水俊介(日本大)・半貫敏夫・新井佑一郎・小中孔明・秋山 宏
- 22509 400N級鋼材を用いた柱梁接合部の延性破壊一脆性破壊遷移実験 その1 実験概要 ○小中孔明(日本大)・半貫敏夫・新井佑一郎・清水俊介・秋山 宏
- 22510 400N級鋼材を用いた柱梁接合部の延性破壊一脆性破壊遷移実験 その2 実験結果 ○新井佑一郎(日本大)・半貫敏夫・小中孔明・清水俊介・秋山 宏
- 23291 耐震診断におけるそで壁付柱と有開口耐震壁の評価方法に関する解析的検討 基本モデルの構築と下階壁抜け柱の検討 ○北野由樹(日本大)・増田久美子・田嶋和樹・白井伸明
- 23292 耐震診断におけるそで壁付柱と有開口耐震壁の評価方法に関する解析的検討 有開口耐震壁の低減率の提案 ○増田久美子(日立機材)・北野由樹・田嶋和樹・白井伸明
- 23299 ダボ筋と充填材のモデル化に着目した補強接合部のせん断挙動解析 ○國本拓也(日本大)・田嶋和樹・白井伸明
- 23300 改良ファイバーモデルによるRC造柱の残存耐震性能評価 その1 実験概要とFEM解析による破壊性状および変形挙動の解析 ○尾崎英介(日本大)・伊藤 唯・今井 究・田嶋和樹・白井伸明
- 23301 改良ファイバーモデルによるRC造柱の残存耐震性能評価 その2 各種変形挙動をモデル化するサブ要素によるファイバーモデルの改良 ○伊藤 唯(日本大)・尾崎英介・今井 究・田嶋和樹・白井伸明
- 23302 改良ファイバーモデルによるRC造柱の残存耐震性能評価 その3 RC造骨組の残存耐震性能評価 ○今井 究(構造ソフト)・伊藤 唯・尾崎英介・田嶋和樹・白井伸明
- 23309 RC構造物の弾塑性ねじれ挙動に関する解析的研究 実大RC構造物の解析モデルの検証 ○堀川真之(日本大)・安達一喜・田嶋和樹・白井伸明
- 23310 RC構造物の弾塑性ねじれ挙動に関する解析的研究 耐力偏心がRC構造物のねじれ挙動に及ぼす影響の把握 ○安達一喜(日本大)・堀川真之・田嶋和樹・白井伸明

環境工学 I, II

- 40002 継続的な運動トレーニングが脊髄損傷者の温熱環境適応能力に及ぼす影響 その1 調査概要及び運動トレーニング開始後の頸髄損傷者の起床時バイタルサイン変化 ○三上 功生(東京理科大)・松本 敬・青木和夫・蜂巢浩生・武田 仁
- 40003 継続的な運動トレーニングが脊髄損傷者の温熱環境適応能力に及ぼす影響 その2 運動トレーニング開始後の頸髄損傷者の温熱生理反応について ○松本 敬(日本大)・三上 功生・青木和夫・蜂巢浩生・武田 仁
- 40068 外壁 ALC 版の割り付けの違いによる遮音性能低下

量の検討 外壁固体音による遮音性能低下に関する研究：その5 ○**兒玉蘭蘭** (奥村組技研)・**稲留康一**・**柳沼勝夫**・**井上勝夫**

40069 受音室側外壁の振動伝搬特性について 外壁固体音による遮音性能低下に関する研究：その6 ○**柳沼勝夫** (奥村組技研)・**稲留康一**・**井上勝夫**

40076 支持脚と床下空気層による伝達加振力がスラブ振動に与える影響 乾式二重床における床衝撃音発生系の検討 その3 ○**狩野桂佑** (日本大)・**井上勝夫**・**富田隆太**・**奥村晃史**

40077 空気弾性による伝達加振力を考慮したスラブ振動の予測方法に関する検討 乾式二重床における床衝撃音発生系の検討 その4 ○**奥村晃史** (清水建設)・**井上勝夫**・**富田隆太**・**狩野桂佑**

40084 騒音源別に見た裁判事例の分析 住宅の音環境トラブルの発生原因と司法判断に関する考察：その3 ○**高橋菜美** (日本大)・**井上勝夫**・**関口優子**

40085 音環境問題に関する音響計測の司法判断について 住宅の音環境トラブルの発生原因と司法判断に関する考察：その4 ○**関口優子** (日本大)・**井上勝夫**・**高橋菜美**

40087 重量床衝撃音の最大A特性音圧レベルと各種心理量の対応に関する主観評価実験 ○**濱田幸雄** (日本大)・**井上勝夫**・**平光厚雄**・**漆戸幸雄**

40089 2種類の標準重量衝撃源による床衝撃音レベルの対応性に関する検討 ○**稲留康一** (奥村組技研)・**井上勝夫**

40095 円形および楕円形ボイドスラブの端部拘束におけるインピーダンスレベル上昇量について ○**鹿倉潤二** (栗本鐵工所)・**井上勝夫**

40099 床先行における遮音性能および振動性能の検討 その4 乾式二重床上の振動伝播特性の検討 ○**鈴木俊男** (淡路技建)・**井上勝夫**

40137 音響数値解析環境“OpenAcoustics”プロジェクト 1. プロジェクトの概要 ○**鈴木久晴** (日本エヴィクサー)・**大嶋拓也**・**石塚 崇**・**星 和磨**

40138 音響数値解析環境“OpenAcoustics”プロジェクト 2. 既存コードとの比較 ○**大嶋拓也** (新潟大)・**鈴木久晴**・**石塚 崇**・**星 和磨**

40143 室内音場における反射音密度が聴感に及ぼす影響の基礎的検討 ○**来栖真弓** (日本大)・**羽入敏樹**・**星 和磨**

40160 30Hzより高い周波数の振動が人の振動感覚に与える影響 床振動測定用標準衝撃源としてのボールの有用性に関する研究：その5 ○**富田隆太** (日本大)・**井上勝夫**・**伊東 和**・**松田 貫**

40161 決定周波数以外の周波数による振動が人の振動感覚に与える影響 床振動測定用標準衝撃源としてのボールの有用性に関する研究：その6 ○**伊東 和** (鹿島建設)・**井上勝夫**・**富田隆太**・**吉澤玲児**

40162 衝撃振動の回数変化が人の振動感覚に与える影響 床振動測定用標準衝撃源としてのボールの有用性に関する研究：その7 ○**吉澤玲児** (日本大)・**井上勝夫**・**富田隆太**・**伊東 和**

40163 木造住宅を対象とした振動感覚評価実験 鉄道振動に対する振動感覚と振動応答物理量に関する研究：その1 ○**長島明日香** (日本大)・**井上勝夫**・**富田隆太**・**松田 貫**

40164 振動感覚と振動応答加速度に関する検討 鉄道振動に対する振動感覚と振動応答物理量に関する研究：その2

○**松田 貫** (日本大)・**井上勝夫**・**富田隆太**・**長島明日香**

40255 開口部寸法や形状による影響度に関する検討 窓状開口部の電波透過性状に関する実験的検討：その1 ○**村田義明** (東京大大学院)・**吉野涼二**・**井上勝夫**

40256 電磁シールド性能に対する開口寸法と受信点距離の影響度に関する検討 窓状開口部の電波透過性状に関する実験的検討：その2 ○**吉野涼二** (大成建設)・**井上勝夫**・**村田義明**

40472 居住環境における健康維持増進に関する研究 その6 居住環境と児童の健康障害との関連性に関する調査研究 (1) 児童のアレルギー性疾患の有病率調査 (Phase1) の結果 ○**安藤直也** (東北大)・**吉野 博**・**長谷川兼一**・**阿部恵子**・**池田耕一**・**加藤則子**・**熊谷一清**・**長谷川あゆみ**・**三田村輝章**・**柳 宇**・**高松真理**・**松田麻香**

40473 居住環境の健康維持増進住宅に関する研究 その7 居住環境と児童の健康障害との関連性に関する調査研究 (2) アレルギー性疾患と居住環境との関連性についてのアンケート調査 (Phase2) の結果 ○**松田麻香** (秋田県立大大学院)・**吉野 博**・**長谷川兼一**・**阿部恵子**・**池田耕一**・**加藤則子**・**熊谷一清**・**長谷川あゆみ**・**三田村輝章**・**柳 宇**・**高松真理**・**安藤直也**

40474 居住環境の健康維持増進住宅に関する研究 その8 居住環境と児童の健康障害との関連性に関する調査研究 (3) 住宅の室内環境に起因する健康影響に関する実測調査 (Phase3) の概要と途中結果 ○**高松真理** (秋田県立大大学院)・**吉野 博**・**長谷川兼一**・**阿部恵子**・**池田耕一**・**加藤則子**・**熊谷一清**・**長谷川あゆみ**・**三田村輝章**・**柳 宇**・**松田麻香**・**安藤直也**

40475 居住環境における健康維持増進に関する研究 その9 居住環境と児童の健康障害との関連性に関する調査研究 (4) 住宅の室内環境に起因する健康影響に関する実測調査 (Phase3) の冬期真菌測定結果 ○**柳 宇** (国立保健医療科学院)・**吉野 博**・**長谷川兼一**・**阿部恵子**・**池田耕一**・**加藤則子**・**熊谷清一**・**長谷川あゆみ**・**三田村輝章**・**高松真理**・**松田麻香**・**安藤直也**

40560 超長期住宅先導的モデル事業における環境工学的支援 ○**吉野泰子** (日本大)・**王 岩**・**沈 源**

40571 都市型狭小住宅における主開口の方位と構成要素が室内環境に及ぼす影響に関する検討 ○**木下亮佑** (日本大)・**吉野泰子**・**関口克明**

41209 中国チベット高原における自然エネルギー適用住宅に関する検討 その1. 太陽エネルギー暖房の地域特性 ○**王 岩** (日本大)・**吉野泰子**・**関口克明**・**劉 加平**・**楊 柳**

建築計画 I, II

5053 公立文化ホールの少子高齢化・バリアフリー対応の改修実態について 1980年以前に開館した県立クラスホールの改修に関する実態調査 その1 ○**前田明継** (東京都市大大学院)・**勝又英明**・**藤田 伶**・**本杉省三**

5054 公立文化ホールの機能改善・快適性向上のための改修実態について 1980年以前に開館した県立クラスホールの改修に関する実態調査 その2 ○**藤田 伶** (日本大)・**本杉省三**・**前田明継**・**勝又英明**

5132 国立代々木競技場における施設改修の変遷 大規模公共体育館における多目的利用空間の経年変化に関する研究 その2 ○**矢野裕芳** (日本大)・**渡辺富雄**・**若色峰郎**

5137 アートプロジェクトにおける展示空間と作品形態に関する研究 ○**藤井さゆり** (日本大)・**佐藤慎也**

5141 工学系大学博物館の概要について 大学博物館の運営実態に関する基礎的研究 その1 ○大山亜紀子(日本大)・重枝 豊・伊東 孝

5309 都市における地下空間に関する研究 ○大西健太(日本大)

5507 子どもの発達とトイレ利用 子どもと子連れの親等が利用する水まわり空間に関する研究 その1 ○八藤後 猛(日本大)・江口真弓・田村房義

5508 子どもとの外出時における公共施設トイレ利用の実態と意識 子どもと子連れの親等が利用する水まわり空間に関する研究 その2 ○江口真弓(TOTO)・八藤後 猛・田村房義

5589 既存建築空間のモラトリアムな状態に関する研究 下田旧南豆製氷所を事例として その1 ○森實幸子(日本大)・山中新太郎・鳥居昂志郎

5776 アンコール(王城)地域の山(プノン)と水(湖・川)崇拝と水運・方位軸について地域継承空間システム(山と海の空間軸)と場所性・都市空間構成に関する研究 ○宇杉和夫(日本大)

5798 月島の街区形成における路地と隙間の空間分布類型について ○千島孝弘(日本大)・宇杉和夫

5799 江戸切絵図の道空間分析に関する研究 ○猿渡 俊(日本大)・宇杉和夫

都市計画

7100 中国・北京市における芸術区の形成過程と実態に関する研究 ○大岡亜沙美(日本大)・川島和彦・市橋彩子(東工大大学院)

7273 緑地景観保全の観点から捉えた車窓景観の注視野および印象特性に関する研究 千葉県流山市つくばエクスプレス沿線地区をケーススタディとして ○宮森 隆(日本大)・横内憲久・岡田智秀・押田佳子

7287 ベトナム・ハノイ市旧市街地の街路空間特性に関する研究 その1. 物的空間構成の分析 ○高瀬治郎(日本大)・力武俊輔・川島和彦

7288 ベトナム・ハノイ市旧市街地の街路空間特性に関する研究 その2. 利用実態からみた街路空間の担う役割 ○力武俊輔(日本大)・高瀬治郎・川島和彦

7300 商品等のあふれ出しに着目した商店街の賑わいに関する研究 ○鳥居昂志郎(日本大)・山中新太郎・森實幸子

7370 高齢社会に対応した公園の空間構成に関する研究 散歩行動に着目して ○坂本恭通(日本大)・川島和彦

7425 町屋再生施設が住民の意識・行動に及ぼす影響に関する研究 加賀市大聖寺地区における町屋再生事業を対象として ○中野直樹(日本大)・川島和彦

7528 都市部におけるエリアマネジメントに関する研究 エリアマネジメントの活動財源に着目して ○齋藤 淳(日本大)・横内憲久・岡田智秀・高木宗房

7538 都市再生における「まちづくりガイドライン」の効果と有効性に関する研究 その1 「まちづくりガイドライン」の位置づけと役割 ○山崎正樹(日本大)・泉山壘威・内田裕紀・海老原敬宏・川島和彦

7539 都市再生における「まちづくりガイドライン」の効果と有効性に関する研究 その2 「まちづくりガイドライン」

の類型化と策定主体との関係 ○泉山壘威(アルキメディア設計研究所)・内田裕紀・海老原敬宏・山崎正樹・川島和彦

7540 都市再生における「まちづくりガイドライン」の効果と有効性に関する研究 その3 「まちづくりガイドライン」策定における協議会の参加要因 ○内田裕紀(日本大)・海老原敬宏・泉山壘威・山崎正樹・川島和彦

7541 都市再生における「まちづくりガイドライン」の効果と有効性に関する研究 その4 協議会の運営および「まちづくりガイドライン」の運用 ○海老原敬宏(日本大)・内田裕紀・泉山壘威・山崎正樹・川島和彦

建築歴史・意匠

9029 プラサット・トムにおける祠堂の脚部及び基壇の構成 ○小島陽子(日本大)・片桐正夫

9030 ワット・プー(ラオス)南部の「王道」調査報告 カンボジアのアンコール王国時代の王道と橋梁と宿駅に関する総合学術調査 28 ○片桐正夫(日本大)・石澤良昭・上野邦一・重枝 豊・三輪 悟・大山亜紀子・チエンラタ・小島陽子・勝原基貴

9031 ベン・メリアおよびコンボン・スヴァイの大ブリア・カーン東部に分布する古代橋について カンボジアのアンコール王国時代の王道と橋梁と宿駅に関する総合学術調査 29 ○勝原基貴(日本大)・片桐正夫・石澤良昭・上野邦一・重枝 豊・三輪 悟・大山亜紀子・チエンラタ・小島陽子

9094 山越邦彦が設計した金属パイプ家具について 山越邦彦研究・その5 ○梅宮弘光(神戸大大学院)・矢代真己

9268 16～17世紀における神宮工の系譜について その3 小工の系譜と久保倉氏について ○浜島一成(日本大)・片桐正夫

建築デザイン

14001 Wallindow Station 街を宣伝する駅 ○岩田敏幸(日本大)・本杉省三

14002 街と同化する駅舎 地下鉄代官山駅の設計 ○西郷信彦(日本大)

14010 江古田駅改修計画 ○吉田直樹(日本大)

14018 ひっぱられて、つながって。 地域固有の商業施設のケーススタディ ○岩木友佑(日本大)・本杉省三

14021 レベル差と家具によってできる領域 既存校舎を利用した活動支援型図書館の提案 ○田村圭祐(日本大)

14049 車輪型ケーブル構造によるパーゴラの計画 ○宮下正人(三菱地所設計)・小川一郎・岡田 章・宮里直也・吉原 正

14050 テンセグリットラス・タイプⅢの施工と事前検証 ○実石 明(太陽工業)・岡田 章・宮里直也

14067 神奈川県立近代美術館 鎌倉 新館 「建築の翻訳」をキーワードとする既存改修・増築計画 ○柴多 悠(日本大)

14083 百年続くケアハウス 福祉施設の拡張及び変容 ○寺山靖彦(日本大)・本杉省三

14091 +1人/日 ○佐脇三乃里(日本大)・藤井さゆり・佐藤慎也

14093 サウンド・オブ・下北沢 積層される街に住む ○林 高平(日本大)

■片桐正夫元教授が、日本大学名誉教授の称号を授与された。

■八藤後猛研究室が、日本大学、TOTO(株)と共同で「第3回キッズデザイン賞」(主催:キッズデザイン協議会)のリサーチ部門賞を受賞した。「子どもの発達に合わせた適切なトイレ環境の研究」による成果が評価されたもので、昨年の第2回に続く入賞である。

■松田佳那さん(今村研 M1)、原友里恵さん、藤井さゆりさん(佐藤慎也研 M1)、真砂遥さん(本杉研 M1)、森實幸子さん(山中研 M1)の「TRK」が、「地球に優しい住生活デザインコンペティション 優秀賞・クリナップ賞」(主催:地球に優しい住生活デザインコンペティション運営委員会)を受賞した。この作品は関東地区2次審査通過5作品に選ばれ、「Real Size Thinking」の下に原寸大モデルが制作されて展示会に出品さ



TRK



ろ過する住宅



ロ | 炉

教室ぶろむな一ど

れた。また、田村圭祐君(本杉研 M2)、岩木友佑君、林高平君(同 M1)の「ろ過する住宅」が「同 INAX 賞」、居波宏和君(横河研 M2)、的場弘之君、渡辺貴通君(同 M1)の「ロ | 炉」が「同東京ガス賞」を受賞した。

■中野直樹君(不動産・都市計画研 M1)の卒業論文「町屋再生施設が住民の意識・活動に及ぼす影響に関する研究 加賀市大聖寺地区における町屋再生事業を対象として」が、「2009年度日本建築学会 優秀卒業論文賞」を受賞した。

■井上峰一君、小野志門君(佐藤光彦研 M2)、田中麻未也君(同4年)の「林と森」が、「21世紀の小国の家滞在コンペティション 優秀賞」(主催:小国町森林組合他)を受賞した。熊本県小国町での滞在を通して、「21世紀の小国の家」へのスケッチが求められた。



林と森

■岩木友佑君(本杉研 M1)の「街を憩う公園」が、「第3回芸術センター記念



街を憩う公園

コンペティション」(主催:芸術センター顕彰委員会他)に入選した。「大不況下の複合商業施設」をテーマに提案が求められた。

■佐脇三乃里さん、藤井さゆりさん(佐藤慎也研 M1)、佐藤慎也助教連名の「+1人/日」が、2009年度日本建築学会デザイン発表会テーマ部門「住むところ 都市あるいは反都市」において、講評者の植田実氏により、優秀な発表として顕彰された。

■櫻井健太郎氏('08年度不動産修了)、川島和彦専任講師連名の原著論文「地域の安全確保に配慮した木造戸建て住宅の耐震改修等助成制度に関する研究」が、日本都市計画学会の都市計画論文集 No.44に掲載された。

■王岩君(D3)、吉野泰子短大教授、関口克明非常勤講師、劉加平氏、楊柳氏(西安建築科技大学教授)連名の原著論文「中国チベットにおける高原居住環境の実態調査研究」が、日本建築学会技術報告集第15巻第30号に掲載された。

■佐藤慎也研究室が、10月3日、4日にアーバンドックららぽーと豊洲で開催された「BO-SAI 2009 in 豊洲 シェルターフェスティバル」に、「シェルター家族」で参加した。身の回りのモノで作られたオリジナルの災害用シェルターへの提案に対し、ヌイグルミによるシェルターを制作・展示した。



シェルター家族

■柳田武専任講師が8月8日をもって退職された。永い間ありがとうございました。

駿建目次

2009年11月号 Vol.37 No.3 通巻155号

表紙「シェルター家族」

設計・制作:佐藤慎也研究室

撮影:佐藤慎也

SUPER JURY 2009

2009年度 デザインワークショップ I

第41回 建築学生海外研修旅行報告

オリエンテーション報告

2

4

6

11

私と建築

2009年度 日本建築学会大会(東北)

建築学科教室関係者発表論文リスト

教室ぶろむな一ど

12

15

20